

2021年3月期第2四半期 決算説明資料

2020年11月27日

東証1部: 6333



株式会社 帝国電機製作所

1.	2021年3月期第2四半期決算	3
2.	2021年3月期業績見通し	14
3.	対処すべき課題への取組み状況	22
4.	参考資料	30



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ —————
私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

1. 2021年3月期第2四半期決算



株式会社 帝国電機製作所

2021年3月期第2四半期決算概要



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)	2020年3月期 第2四半期 連結累計期間	構成比 (%)	2021年3月期 第2四半期 連結累計期間	構成比 (%)	増減	増減率 (%)
売上高	11,554	100	9,598	100	▲1,956	▲16.9
売上原価	6,791	58.8	6,026	62.8	▲764	▲11.3
売上総利益	4,763	41.2	3,571	37.2	▲1,192	▲25.0
販売費及び一般管理費	3,002	26.0	2,647	27.6	▲355	▲11.8
営業利益	1,760	15.2	923	9.6	▲837	▲47.5
経常利益	1,749	15.1	993	10.3	▲756	▲43.2
親会社株主に帰属 する四半期純利益	1,121	9.7	768	8.0	▲353	▲31.5

新型コロナウイルスの影響等により減収減益

売上高

売上高減少の主な要因

- ・ 前期売上好調の反動減に加え、新型コロナウイルスの影響に伴う経済活動の減速により、顧客の設備投資やプロジェクトの延期が相次いだこと
- ・ 電子部品事業は、新型コロナウイルスの影響による自動車需要の減少の影響

営業利益

営業利益減少の主な要因

- ・ ポンプ事業、電子部品事業の売上減少により減少

（中国の修理子会社1社清算による未払税金（源泉税、増値税分）取崩しによるプラス要因69百万円）

親会社株主に帰属する 四半期純利益

前期比▲31.5%減少

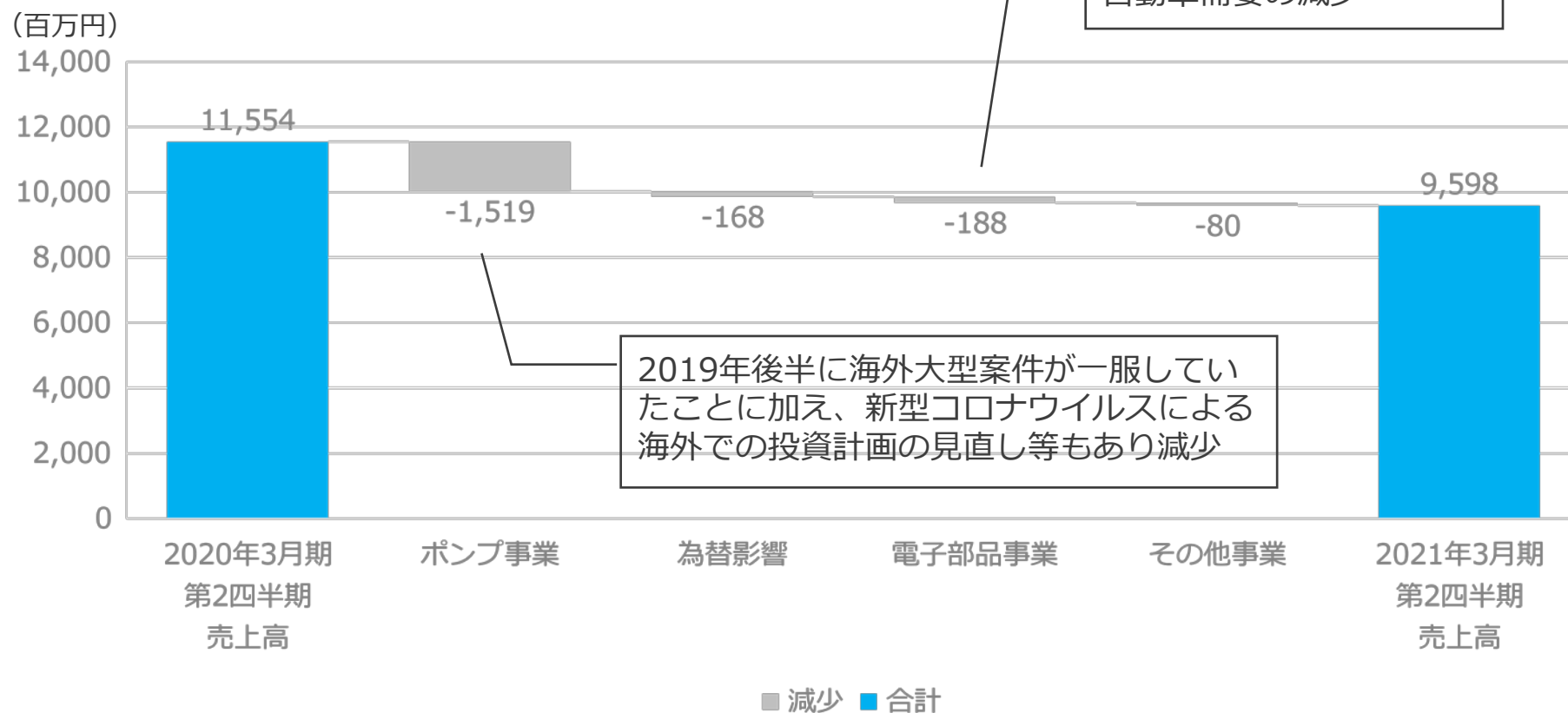
（中国の修理子会社1社清算による未払税金（企業所得税分）取崩しによるプラス要因117百万円）

売上高増減分析



株式会社 帝国電機製作所

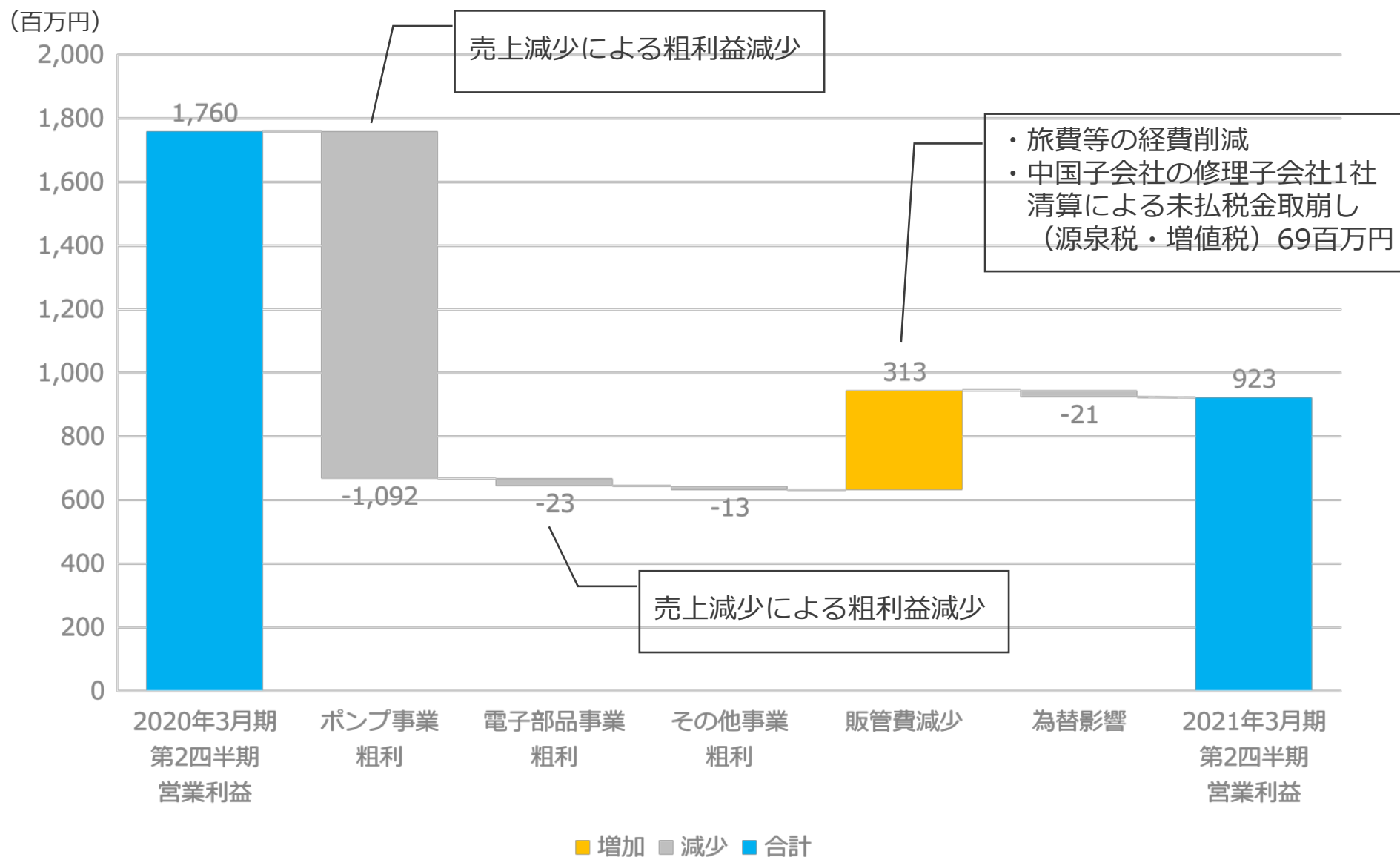
期中平均レート推移	2020年3月期第2四半期	2021年3月期第2四半期
U S ドル	110.07円	108.24円
人民元	16.20円	15.38円
ユーロ	124.33円	119.33円



営業利益増減分析



株式会社 帝国電機製作所



種類別セグメント（売上高・営業利益）



株式会社 帝国電機製作所

- 新型コロナウイルス等の影響によりポンプ事業、電子部品事業とも減収減益

(百万円)		2020年3月期 第2四半期 連結累計期間	2021年3月期 第2四半期 連結累計期間	増減	増減率
ポンプ事業	売上高	10,427	8,738	▲1,688	▲16.2%
	営業利益 (営業利益率)	1,850 (17.8%)	1,037 (11.9%)	▲813	▲44.0% (▲5.9%)
電子部品事業	売上高	834	646	▲188	▲22.5%
	営業利益 (営業利益率)	▲143 (－%)	▲158 (－%)	▲14	－ (—)
その他	売上高	293	213	▲80	▲27.4%
	営業利益 (営業利益率)	53 (18.3%)	45 (21.3%)	▲8	▲15.6% (+3.0%)
合計	売上高	11,554	9,598	▲1,956	▲16.9
	営業利益 (営業利益率)	1,760 (15.2%)	923 (9.6%)	▲837	▲47.5% (▲5.6%)

ポンプ事業 所在地別売上高



株式会社 帝国電機製作所

- 日 本・・・国内は老朽化更新や半導体関連、定量ポンプ関連、部品販売が堅調で増収だが輸出が減少
- 欧 米・・・米国は原子力向けが増加したものの主力のケミカル向けが減少し減収
- アジア・・・中国は、新型コロナ影響でケミカル向けが減少した他、インフラ投資がストップし機関車向け等も減少し減収、東南アジアはパーム油向け好調で増収

(百万円)		2020年3月期 第2四半期 連結累計期間	2021年3月期 第2四半期 連結累計期間	増減	増減率
日本	売上高	3,501	3,708	+206	+5.9%
欧米	売上高	2,535	2,237	▲298	▲11.8%
アジア	売上高	4,390	2,793	▲1,596	▲36.4%
合計		10,427	8,738	▲1,688	▲16.2%

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間は除く）

●前期売上好調の反動減や海外プロジェクトの延期等によりケミカル機器用が減少

(百万円)	2020年3月期 第2四半期 連結累計期間	比率 (%)	2021年3月期 第2四半期 連結累計期間	比率 (%)	増減	増減率 (%)
ケミカル機器用	5,806	55.7	4,500	51.5	▲1,305	▲22.5
冷凍機・空調機器用	914	8.8	873	10.0	▲41	▲4.5
電力用（車両用）	446	4.3	213	2.4	▲233	▲52.2
電力用（地上用）	247	2.4	304	3.5	+56	+22.8
定量注入機器	197	1.9	241	2.8	+44	+22.3
その他ポンプ	39	0.3	156	1.8	+117	+296.2
メンテナンス	2,774	26.6	2,448	28.0	▲326	▲11.8
合計	10,427	100.0	8,738	100.0	▲1,688	▲16.2

●受注は新型コロナウイルス等の影響により減少

(百万円)	2020年3月期 第2四半期 連結累計期間		2021年3月期 第2四半期 連結累計期間		増減	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ポンプ事業	10,691	9,852	9,012	8,575	▲1,679	▲1,276
電子部品事業	818	133	696	161	▲121	+28
その他	251	64	228	103	▲22	+39
合計	11,761	10,049	9,937	8,841	▲1,823	▲1,208

要約貸借対照表



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)

資産の部	2021年3月期 第2四半期 連結累計期間	前期末増減	負債の部	2021年3月期 第2四半期 連結累計期間	前期末増減
流動資産	23,530	▲200	流動負債	6,205	▲620
現預金	11,046	+531	支払手形・ 買掛金	1,917	▲213
受取手形・売掛金	7,766	▲577	短期借入金	350	▲101
製品・仕掛品 原材料・貯蔵品	4,773	▲124	未払法人税等(※)	817	▲126
固定資産	10,886	▲160	その他(※)	3,120	▲178
有形固定資産	8,554	▲151	固定負債	884	▲16
無形固定資産	471	▲92	純資産	27,326	+275
投資その他の資産	1,859	+84	(内自己株式)	(▲927)	(0)
資産合計	34,416	▲360	負債・純資産合計	34,416	▲360

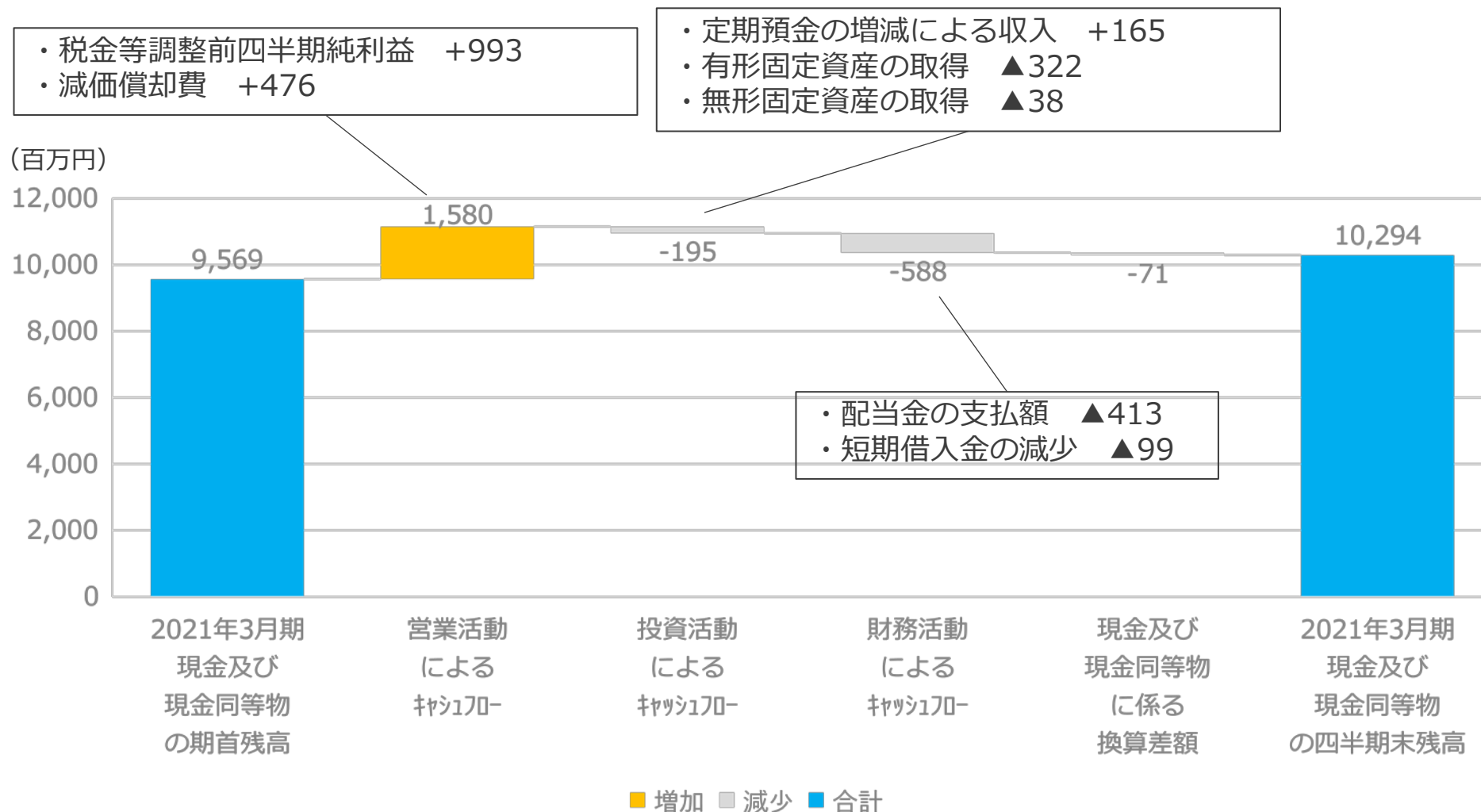
※ 中国子会社の修理子会社2社のうち1社清算に係る未払税金取崩し
未払法人税等：117百万円 その他(うち未払金より)：69百万円

キャッシュフロー分析



株式会社 帝国電機製作所

●現金・同等物期末残高は725百万円増加





世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

2. 2021年3月期業績見通し



株式会社 帝国電機製作所

2021年3月期決算への影響

- 新型コロナウイルスの影響による経済活動の減速により顧客の設備投資やプロジェクトの延期が相次いでいる
- 下期回復を見込むが本格回復には時間を要する見込み（新型コロナウイルスの第二波、第三波等は考慮していない）

現在の状況

国名	足許の状況	生産・営業活動
日本	・ 特に移動制限等はなく客先のプラントも稼働している ・ 一部で客先訪問の制限あり	・ 工場は通常稼働、営業や技術部門等の一部が交替でテレワークを継続 ・ 受注状況は、更新需要等は堅調だが海外新規プロジェクト案件減少により輸出減
欧米	・ 感染拡大が止まらず経済活動に影響	・ 米国子会社の工場は通常どおり稼働中、営業・管理部門は交替でテレワークを継続 ・ 米国は1～3月にロックダウン前の駆け込み需要等あったが、足許は設備投資やプロジェクトの延期・見直しの動きもあり弱含み ・ 欧州は一部地域で再びロックダウン
アジア	・ インドは感染拡大中だが経済的事情から一部を除きロックダウン解除 ・ 中国、韓国、東南アジアは沈静化	・ 中国子会社は通常稼働 ・ 中国は足許の受注は回復傾向にあるが本格的な回復にはなお時間を要する見込み ・ インド子会社は通常稼働 ・ 韓国、東南アジアは通常営業だが一部で客先の訪問制限あり

業績見通しの前提条件



株式会社 帝国電機製作所

セグメント別		
ポンプ事業	日本	・ 新型コロナ影響等により上期受注が輸出向けを中心に低調であったことから、下期は上期より売上・利益とも減少する見込みだが、老朽化更新や半導体関連、定量ポンプ関連、部品販売が堅調に推移しており、通期としては売上・利益とも当初計画を上回る見込み
	欧米	・ 第2四半期（※）以降、新型コロナウイルスによる経済活動の減速により、プロジェクト案件の延期・中止や見直しが発生しており、上期受注が低調であったことから、下期売上は上期を下回り、通期でも当初計画を下回る見込み。利益は旅費等の経費削減によりほぼ当初計画どおりの見込み
	アジア	・ 中国は、第1四半期に移動制限の影響で受注が落ち込んだものの、第2四半期以降は回復傾向にあり、東南アジアもパーム油関連が堅調に推移していることから、下期は上期より売上が増加し、通期でも当初計画を上回る見込み
電子部品事業		・ 第2四半期以降、自動車需要が回復傾向にあることから、下期は上期よりも売上・利益ともに回復し、通期でも当初計画を上回る見込み

※ インドを除く海外現地法人の決算期は12月（インドは3月）

計画為替レート

1US \$ =107.0円、1€=120.0円、1元=15.5円、1KRW=0.09円、1INR=1.4円
 （前期実績レート：・ 1US \$ =109.0円、1€=122.0円、1元=15.8円、1KRW=0.09円、1INR=1.5円）

今期計画（業績見通し）



株式会社 帝国電機製作所

業績上方修正理由

主力のポンプ事業で欧米は新型コロナ影響等で計画を下回る見込みだが、日本及び東南アジア市場が想定よりも新型コロナの影響少なく、電子部品事業も回復傾向にあることから、全体として計画を上回る見込みとなった。

(百万円)	2020年3月期 (実績)	構成比 (%)	2021年3月期 (当初予想)	2021年3月期 (修正予想)	構成比 (%)	当初 計画比	前期比 増減	前期比 (%)
売上高	23,576	100	18,400	19,010	100	+610	▲4,566	▲19.4
売上原価	14,138	60.0	11,610	11,920	62.7	+310	▲2,218	▲15.7
売上総利益	9,437	40.0	6,790	7,090	37.3	+300	▲2,347	▲24.9
販売費及び 一般管理費	5,686	24.1	5,710	5,370	28.2	▲340	▲316	▲5.6
営業利益	3,750	15.9	1,080	1,720	9.0	+640	▲2,030	▲54.1
経常利益	3,829	16.2	1,240	1,840	9.7	+600	▲1,989	▲51.9
親会社株主 に帰属する 四半期純利益	3,155	13.4	730	1,350	7.1	+620	▲1,805	▲57.2

※ 前期特殊要因：前期は、中国子会社の修理子会社1社清算（済南）により、過年度に計上した未払税金の取崩しが発生し利益を押し上げた。（販管費：285百万円、法人税等：459百万円）

※ 今期特殊要因：中国子会社の修理子会社1社清算（成都）により、過年度に計上した未払税金の取崩しが発生し利益を押し上げた。（販管費：69百万円、法人税等：117百万円）

種類別セグメント見通し（売上高・営業利益）



株式会社 帝国電機製作所

(百万円)		2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (当初予想)	2021年3月期 (修正予想)	(上期実績)	(下期計画)	当初 計画比
ポンプ事業	売上高	21,061	16,545	17,090	8,738	8,352	+545
	営業利益 (営業利益率)	3,542 (16.8%)	1,223 (7.4%)	1,780 (10.4%)	1,037	743	+557
電子部品事業	売上高	1,965	1,490	1,540	646	894	+50
	営業利益 (営業利益率)	106 (5.4%)	▲195 (-)	▲130 (-)	▲158	28	+65
その他	売上高	548	368	380	213	167	+12
	営業利益 (営業利益率)	101 (18.5%)	52 (14.1%)	70 (18.4%)	45	25	+18
合計	売上高	23,576	18,400	19,010	9,598	9,412	+610
	営業利益 (営業利益率)	3,750 (15.9%)	1,080 (5.9%)	1,720 (9.0%)	923	797	+640

ポンプ事業 所在地別見通し（売上高）



株式会社 帝国電機製作所

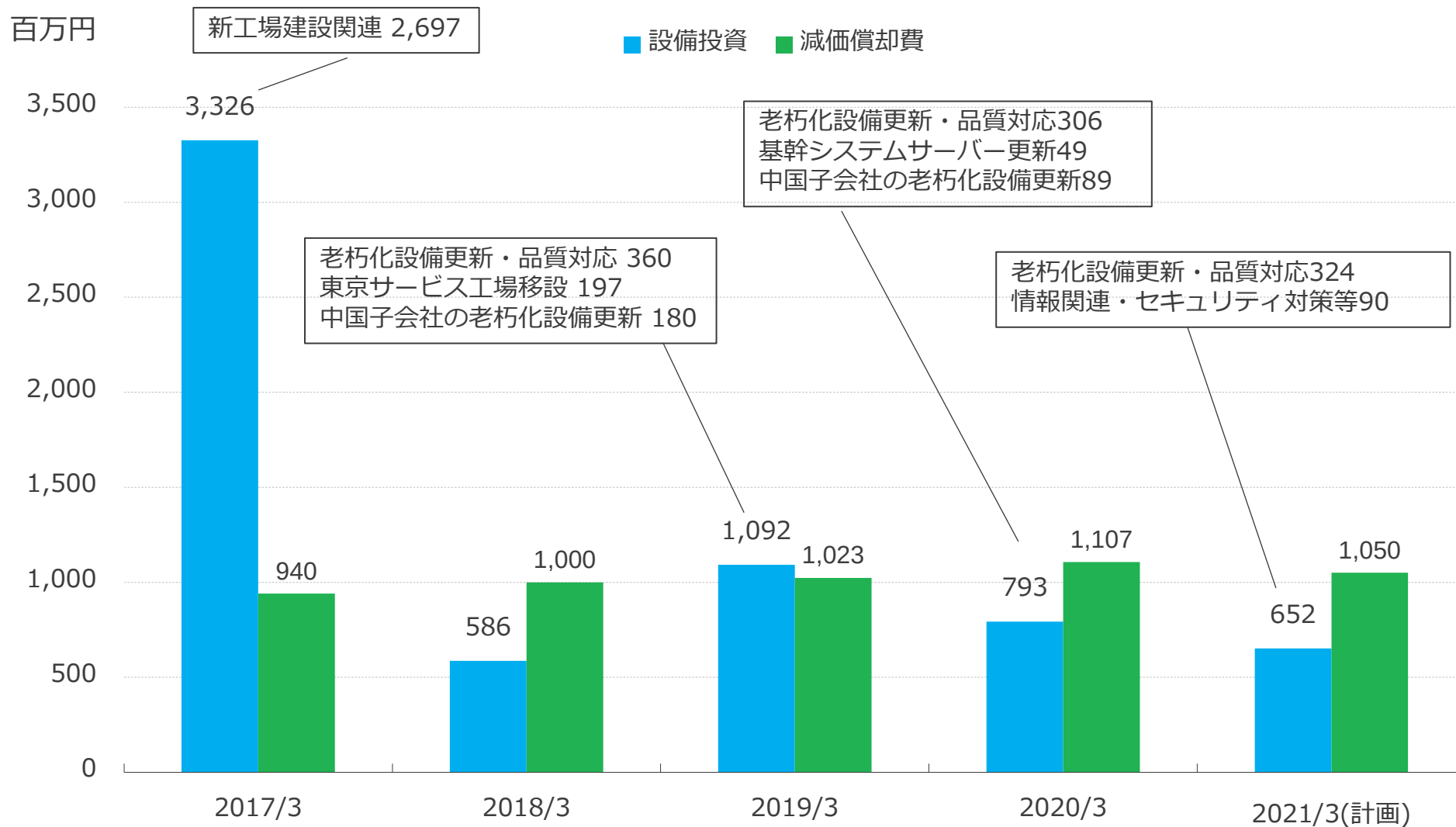
(百万円)	2020年3月期 (実績)	2021年3月期 (当初予想)	2021年3月期 (修正予想)			当初 計画比
				(上期実績)	(下期計画)	
日本	7,506	6,252	6,950	3,708	3,242	+698
欧米	5,139	4,559	4,300	2,237	2,063	▲259
アジア	8,415	5,732	5,840	2,793	3,047	+108
合計	21,061	16,545	17090	8,738	8,352	+545

※販売元が基準（外部顧客に対する売上でセグメント間を除く）

設備投資・減価償却費計画



株式会社 帝国電機製作所



基本方針

株主に対する利益還元は経営の重要課題のひとつ。

拡大する事業機会を迅速・確実に捉える為に必要となる株主資本の水準を保持。

配当

安定配当に留意しつつ、連結配当性向30%以上を目標

自己株式取得

市場環境や資本効率等を勘案し、必要に応じて検討

- ・当期は新型コロナウイルスの影響で大幅減益となるが、安定配当による利益還元を優先し、年間配当額は据え置き予定

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期 (予定)
年間配当金	24円	36円	36円
配当性向(連結)	46.7%	※22.5%	52.5%

※ 2019年12月に総額117百万円の自己株式取得、総還元性向26.2%



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ —————
私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

3. 対処すべき課題への取組み状況



株式会社 帝国電機製作所

TEIKOKU

(1) 課題を見据えた中期的な取組み内容



対処すべき課題

収益力強化

- 顧客ニーズを踏まえた研究開発
- 品質向上とブランド力強化
- グローバル生産・販売・サービス体制の構築
- 原価低減・コスト削減

高度人材の育成

- 顧客ニーズに対応する高度な技術、技能を持つ人材の育成
- 高度な技術力と高い語学力・コミュニケーション能力を併せ持つグローバル人材の育成

C S Rへの積極的取組み

- 持続的な企業価値向上
- E S Gの取組み推進
- 積極的な情報発信

経営方針

チームビルディング

- 組織力の強化による業務効率化・受注力強化

収益基盤の拡大

- 海外受注強化
- 定量ポンプ拡販
- 他社とのアライアンス

業務改革

- 業務フロー改善、DX・IT・IoT技術による業務効率化
- 多能工化
- 働き方改革

人材育成

- 技術者・作業者の更なるレベルアップ
- グローバル人材育成

E S Gの取組み推進

- コーポレート・ガバナンス強化
- 完全無漏洩構造で環境にやさしいキャンドモータポンプの普及

競争優位性の確立

取組み内容

- 情報共有による顧客ニーズへの迅速な対応
- 海外現法との定期的なミーティング（WEB活用）

- ノックダウン生産拡充
- 納期短縮

- 調達先拡充
- 中・大型ポンプ試験設備増強
- D X推進

教育センター室設置

- リスクマネジメント
- コンプライアンス強化
- ペーパーレス化
- I R

- 海外現法からの部品発注のシステム化による効率化

- 定量ポンプの生産能力・サービス体制強化

- 国内子会社の業務内容見直し
- 子会社での生産管理システム導入

- 海外現法への若手営業員・技術者派遣
- 外部講習の活用

- ポンプ効率アップ
- メカニカルシールポンプからのリプレース

(2) 課題を見据えた中期的な取組みの進捗状況



取組みの進捗状況

チームビルディング

- 海外子会社からの部品注文を円滑にするためのシステムを構築中（年内稼働予定）

収益基盤の拡大（※）

- アメリカ子会社において **ノックダウン生産品目を拡充** するための準備を進行中
- API685準拠ポンプのラインナップを増加

業務改革

- 中・大型ポンプ試験設備増強工事完了
- D X 推進（※）

人材育成

- 教育センター室による若手技術者・技能者の **教育訓練** 開始
- 中堅社員へ対象拡大

E S G の取組み推進（※）

- コーポレート・ガバナンス対応（※）
- I S O 45001 認証取得（2020年3月）

（※）次ページ以降に詳細を記載

(2)-1 収益基盤の拡大（営業戦略）

国名	骨子	戦略
日本	<ポンプ事業> ・ One to Oneマーケティング ・ 定量ポンプ拡販	・ 工場単位で顧客訪問を行い設備更新等の情報をいち早く入手、顧客ニーズにきめ細かく迅速に対応し顧客満足度向上を図る ・ 定量ポンプの生産体制強化及び販促強化
	<電子部品事業> ・ 収益改善	・ 生産性改善や製品単価見直し等により収益改善を目指す
欧米	・ 規格対応強化 ・ サービス体制拡充 ・ ノックダウン製品拡充 ・ マーケティング強化 ・ 定量ポンプ拡販	・ 米国での規格への対応強化やサービス体制拡充により、メカニカルシールポンプからのリプレース需要を創出し、キャンドモータポンプ市場の拡大を図る ・ 米国子会社のノックダウン製品拡充による納期短縮化 ・ 欧州での代理店との関係強化 ・ 日本製定量ポンプの販促強化
アジア	・ ケミカル市場の深耕 ・ 直販化推進 ・ 定量ポンプ拡販	・ 中国子会社の生産体制を拡充し納期短縮やポンプ大型化への対応力を強化する ・ 中国製ポンプの中国国外での販売 ・ 東南アジアでの代理店選別と直販化推進 ・ インド子会社のノックダウン生産 ・ 日本製定量ポンプの販促強化

デジタルトランスフォーメーション（D X）の推進

業務	内容
①海外子会社からの部品発注	海外子会社からの部品発注を円滑化するシステムを構築中（年内稼働予定）
②教育・サービス	ウェアラブルカメラの導入により、遠隔での子会社への技術指導やポンプ修理時の技術対応を効率化
③調達	電子発注システム（E D I）導入による調達業務の効率化
④工場、サービス	・無線遠隔監視装置による保守サービスの推進 ・タブレット端末導入（図面、要領書の検索・内容確認、他） ※ 昨年Wi-Fi完備
⑤営業、他	・W E B 会議システムを活用した効率的営業活動 ・各種会議のオンラインでの実施 ・時差出勤とテレワーク ・電子印鑑（認証）システムの導入

コーポレート・ガバナンスへの取組み

役員報酬の見直し

- 業績連動報酬の割合増加（2020年6月実施）
- 株式報酬の割合増加（2020年6月実施）

任意の指名委員会・報酬委員会の設置

- 任意の報酬委員会を設置（2020年6月実施）
- 任意の指名委員会の設置（2020年8月実施）

社会等への取組み

社会への取組み

- 本社工場及び埼玉サービス工場周辺の清掃活動
- 兵庫県たつの市へのマスク2万枚寄贈（2020年5月実施）

従業員への取組み

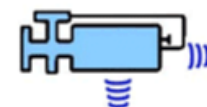
- インフルエンザ予防接種費用の全額会社負担

環境への取組み

① 製品自体が環境貢献

主力製品であるキャンドモータポンプ

- ・ 完全無漏洩であることから、環境負荷が小さい
- ・ 運転音が静かであるため、騒音を低減できる



環境に優しい製品の製造・販売で
地球環境悪化防止に貢献

現在、更なる省エネタイプ（高効率ポンプ）を開発中 2～3年後リリース予定

②当社ポンプの環境貢献例

土壌汚染対策

環境保全型農業製品の製造装置
土壌汚染の防止や安全な農作物の生産を目指す環境保全型農業に適した、肥料や農薬等の農業製品の製造には、高精度な設備が求められます。

有害物質を含む液体が移送されるプラント
液漏れ＝土壌汚染になることから「完全無漏洩」であることが土壌汚染対策となります。

水質汚濁対策

工業排水処理用施設で使用する污水処理装置

下水污泥燃料化設備
海に流出した污泥を回収し、含まれている炭素成分を取り出し燃料化します。

上下水道の浄化システム用オゾン発生装置

大気汚染対策

製油所の脱硫装置
大気中に有害物質である硫黄酸化物を放出させないために、製油所では原油に多く含まれた硫黄分を低減する脱硫装置を使用しています。

再生可能エネルギー

下水処理場の下水污泥ガス化発電システム

太陽光発電パネルに使用される多結晶シリコンの製造装置

地熱等の熱エネルギーを利用したバイナリー発電装置

パームヤシ殻を主燃料にした、木質バイオマス専用の発電設備

その他

EV（電気自動車）関連設備

リチウムイオン電池のセパレータおよびセパレータの原料を製造する設備やリチウムイオン電池における電極の製造装置に採用されています。

バイオ燃料

市販ガソリンにバイオエタノールを混合するプラント

LPGやディーゼルの代替となり得るバイオジメチルエーテルの送液設備

TEIKOKU
キャンドモータポンプ

オゾン層保護

温暖化係数の低い安全なCO₂を冷媒とする冷凍装置

家電や自動車等から回収されたフロン分解処理設備

空調機器や冷凍機器等で使用する代替フロン製造装置

火力発電所の排ガスからCO₂を回収するプラント

再生可能エネルギー

下水処理場の下水污泥ガス化発電システム

太陽光発電パネルに使用される多結晶シリコンの製造装置

地熱等の熱エネルギーを利用したバイナリー発電装置

パームヤシ殻を主燃料にした、木質バイオマス専用の発電設備

その他

EV（電気自動車）関連設備

リチウムイオン電池のセパレータおよびセパレータの原料を製造する設備やリチウムイオン電池における電極の製造装置に採用されています。



世界中の様々な場所で活躍している
テイコクキャンドモータポンプ

私たちはキャンドモータポンプの
リーディングカンパニーです

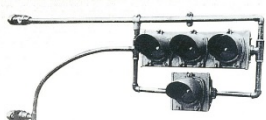
4. 参考資料



株式会社 帝国電機製作所

当社は完全無漏洩構造のキャンドモータポンプを主力事業として、約半世紀にわたって事業を展開しています。

世界各地の石油化学プラント、ファインケミカル、医薬・食品業界、原子力発電所、変電所等様々な分野で活躍し、数多くの実績と信頼を築いています。



1939年
帝国電機製作所
設立

1958年
A型モータ
を試作

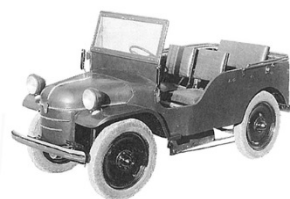
1991年
初の海外拠点
となる
TEIKOKU USA
INC. を設立

2003年
TEIKOKU USA
INC.が米国クレ
イン社のケミポ
ンプ事業部を買
収



2017年
本社工場
リニューアル

1947年
テイコク製電気
自動車を開発



1960年
キャンドモータ
ポンプの開発に
成功

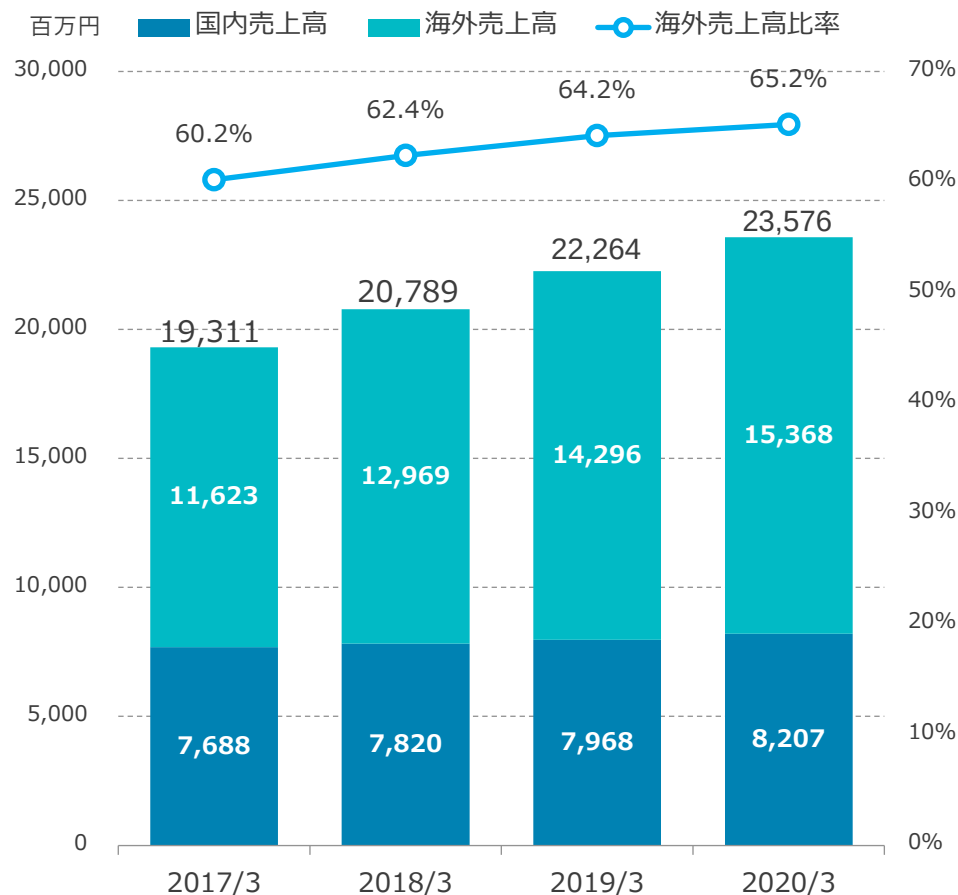


1994年
中国に大連帝国
キャンドモータ
ポンプ有限公司
を設立

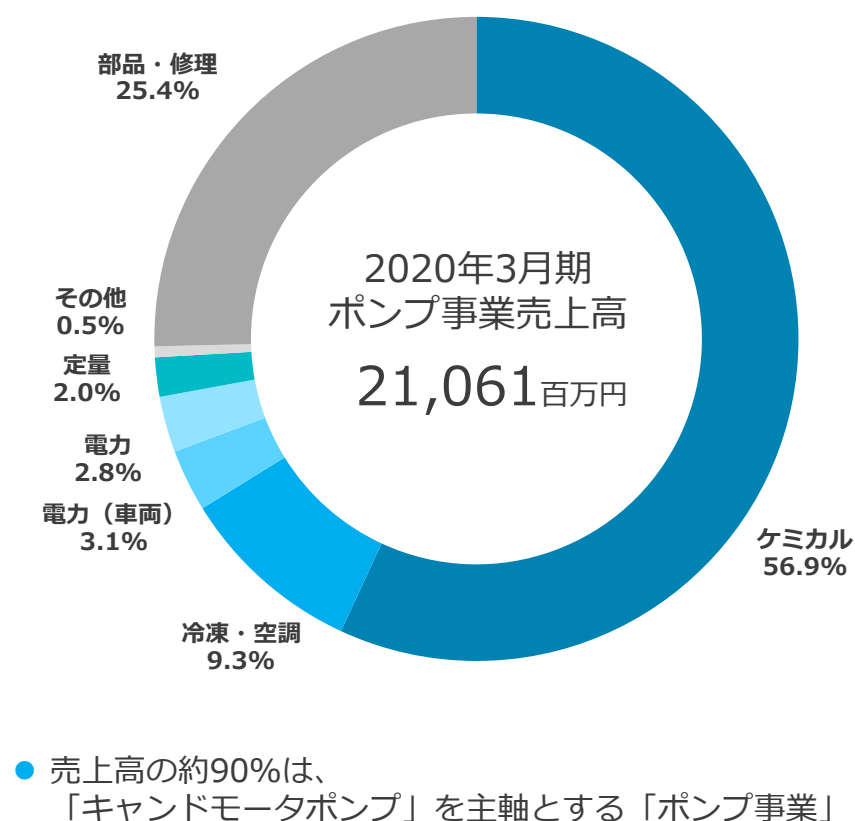
2006年
東京証券
取引所市
場第一部
に上場

2017年
インドのHYDRODYNE
(INDIA)PVT. LTD. を子会社化
(現・HYDRODYNE
TEIKOKU(INDIA)PVT.LTD.)

国内外売上高比率の推移



ポンプ用途別売上比率



過去業績の推移



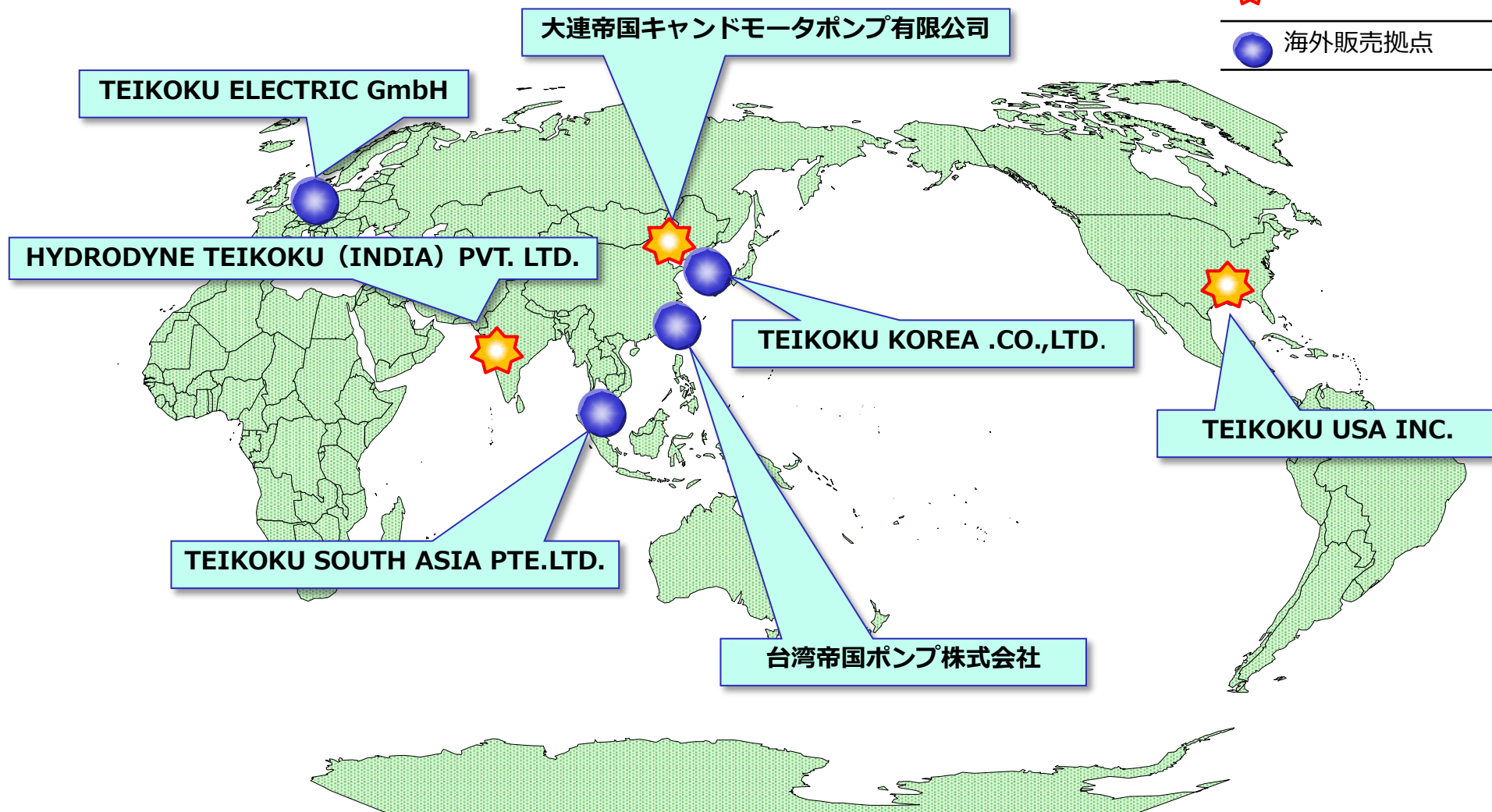
株式会社 帝国電機製作所

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
売上高 (百万円)	20,748	19,311	20,789	22,264	23,576
営業利益 (百万円)	2,168	1,666	2,300	2,025	3,750
営業利益率 (%)	10.5	8.6	11.1	9.1	15.9
ROE (%)	5.9	4.9	6.1	4.1	12.2
ROA (%)	6.5	5.4	7.1	6.6	11.1
配当性向 (%)	21.1	26.4	26.8	46.7	22.5
受注高 (百万円)	21,759	18,146	21,723	24,893	22,234
受注残高 (百万円)	7,504	6,339	7,273	9,843	8,501

当社の海外展開

 海外製造・販売拠点

 海外販売拠点



完全無漏洩という特徴を活かし、石油化学プラント等様々な分野で活躍しています。



電動油ポンプ

変圧器冷却用に使用されています。変電施設の他、すべてのJR新幹線に搭載されています。



キャンدمータポンプ

国際規格API685に準拠したキャンدمータポンプ。高温・高圧に対する耐久性にも優れています。



定量ポンプ

一定量の液体を正確に移送可能なポンプ。用途範囲が広く、薬品業界等で活躍しています。



大型冷凍機・空調機の冷媒の移送においても、当社のキャンدمータポンプが採用されています。



かくはん機

各種槽内の液体を効率よく攪拌でき、石油化学業界のほか、食品業界等でも活躍しています。



キャンドモータポンプの特徴



株式会社 帝国電機製作所

一般的なポンプとキャンドモータポンプの違い

一般的なポンプはポンプとモータを別々に製造し、それをカップリングして使用するため、回転軸を通したケーシングの隙間から、取り扱い液が外部へ漏れてしまいます。

しかし当社のキャンドモータポンプは、ポンプとモータを一体化し、取り扱い液が密閉される構造であるため、完全無漏洩であることが特徴です。

キャンドモータポンプの優れた特徴

1 完全無漏洩



取り扱い液が外部に漏れるおそれがないので、人体に有害な液、爆発や引火しやすい液、高価な液、腐食性のある液などの取り扱いに適しています。

2 外気との接触なし



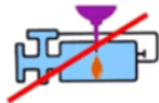
外気を吸い込まないので、真空系での運転、外気に触れると変質する液などの取り扱いに適しています。

3 幅広い圧力・温度に対応



軸シールがないので、系の圧力が高い、高温液、低温液、高融点液などを取り扱うポンプの製作が容易です。

4 潤滑油いらす



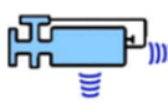
潤滑油を必要としないので、取り扱い液の汚染がなく、給油の手間が不要です。

5 小型軽量で省スペース



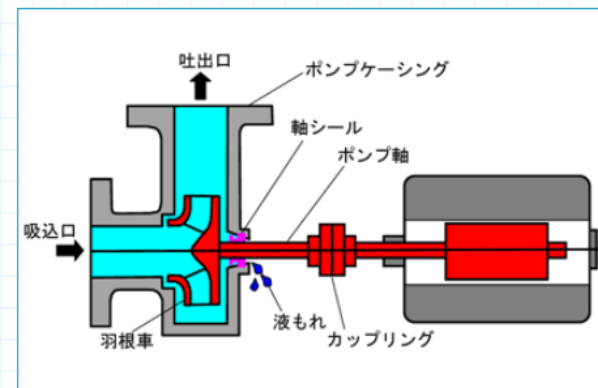
モータ軸がポンプ軸を兼ねているので、小型軽量で設置場所をとらない、分解点検が容易です。

6 静かな運転音



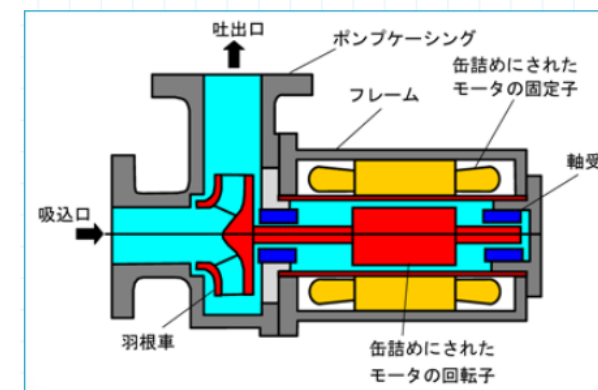
モータを冷却するファンがないので運転音が静かです。

一般的なポンプ

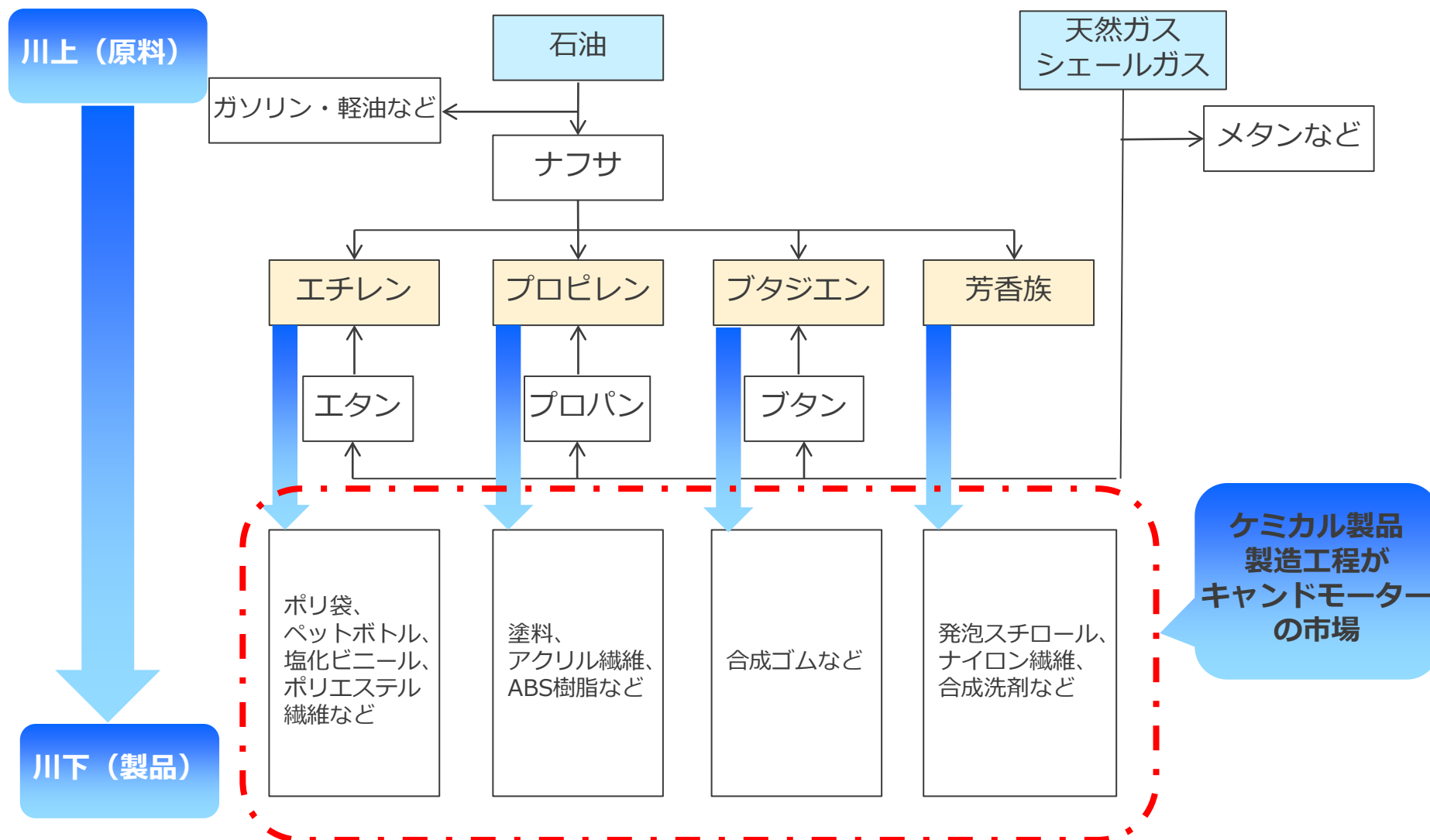


軸シール部から漏洩してしまいます。

キャンドモータポンプ



ポンプとモータを一体化し、密閉された構造であるため漏洩しません。





モータジェネレータ基板

電子部品事業

- 100%子会社平福電機製作所の事業
- 電子部品のプリント基板表面への実装作業中心
(自動車用・二輪車用85%、産業機械用15%)

主力の車載向けに一層注力 (自動車のシステム化・EV化対応)

- 統合ECU (ワイパーや照明等の機能制御機器)
- EPS (電動パワーステアリングシステム)
- SSU (スマートキーレスエントリー)
- モータジェネレータ (車両用発電電動機)
- EV向けモータの回転センサー

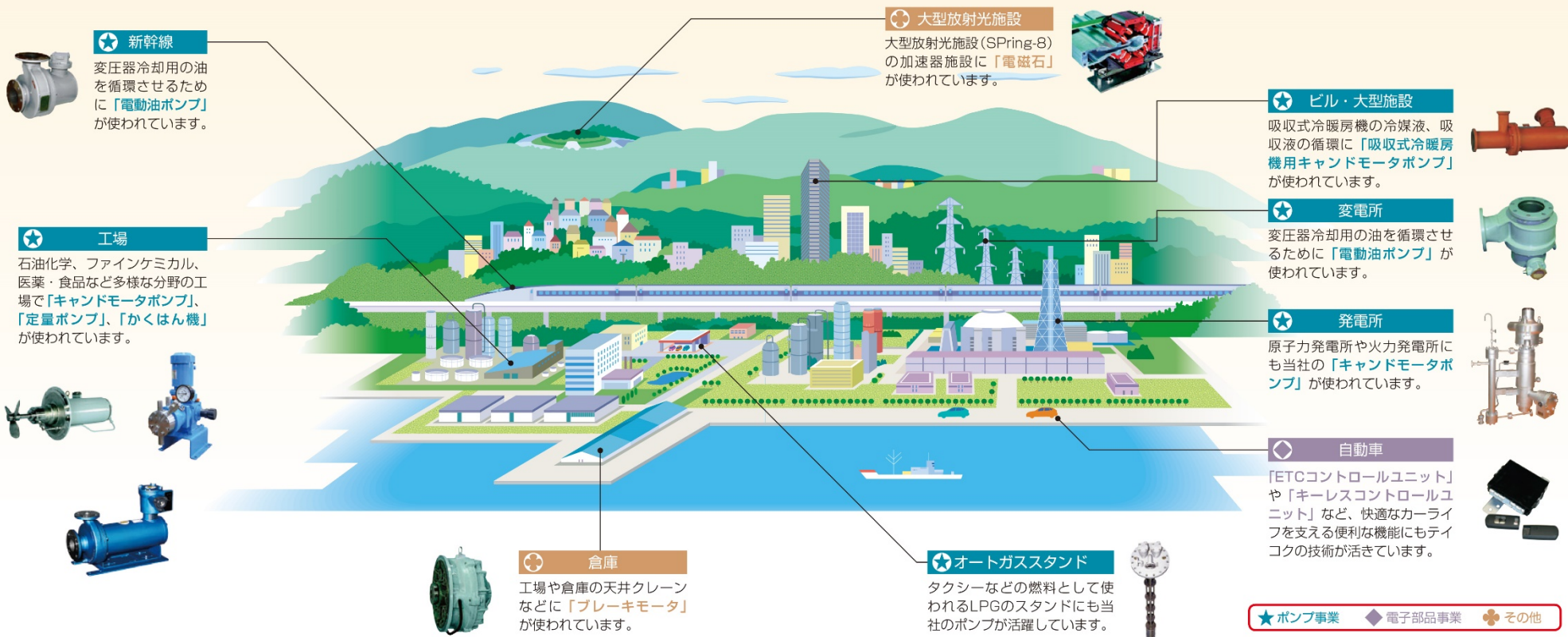
産業機械向けの拡充 (省力化投資拡大による需要増)

- シーケンサ (PLC) 用電源基板・表示器

特集

くらしの中のティコク

当社の製品は、設備や装置の動力部分に使われているため、一般に目に触れる機会はあまりないと思います。しかし、何気なく利用しているビルや交通機関、また、工場、発電所などにも、当社製品は幅広く活躍しており、快適で便利な暮らしや社会をしっかりと支えています。



本資料は当社をご理解いただくために作成されたものであり、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。

本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。

また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれないうようにお願いいたします。